

平成 30 年度 真岡市公共施設等総合管理計画推進市民会議 議事録

■日 時：平成 30 年 11 月 1 日（木）13：30～15：00

■場 所：真岡市役所本庁舎 3 階会議室

■次 第

- 1 開会
- 2 市長あいさつ
- 3 議事
(1) 真岡市公共施設等総合管理計画の進捗状況について
- 4 今後の日程
- 5 閉会

■事前配付資料

真岡市公共施設等総合管理計画の進捗状況

■議 事

- 1 開会
 - ・事務局より、開会あいさつ。
- 2 市長あいさつ（代理：副市長）
 - ・本日の会議は、平成 29 年 3 月に策定した真岡市公共施設等総合管理計画の進捗状況について報告するものである。
 - ・真岡市公共施設等総合管理計画は、公共施設の床面積や更新費用などの縮減を図りながら、公共サービスの維持・向上を図ることを目的としている。
 - ・委員の意見を参考にしながら、今後の計画推進に役立てるとともに、市のホームページ等を通じて情報公開を進めたいと考えている。よろしく願いたい。
- 3 議事
 - (1) 真岡市公共施設等総合管理計画の進捗状況について
事務局：資料の説明。

委 員：資料に延床面積やコストの情報は掲載されているが、施設の利用者数や利用率などの数値は公表しないのか。

事務局：各施設の利用状況等の数値は、関係所管課に調査し、施設カルテとして取りまとめているが現時点において公表していないため、今後検討

したい。

委員：現時点の状況として総床面積が約 0.1 万㎡削減できおり、真岡市公共施設等総合管理計画で定めた 40 年間の目標、及び真岡市公共施設再配置計画で定めた 10 年間の目標に対して、今のところ目標どおりに推進できていると感じる。

今現在、公共施設を利用している人もいるため、短期間で大きく削減することは難しいかもしれないが、利用者の意見も取り入れながら、長期的な視点で縮減を進められるとよいと考える。

事務局：計画策定前に除却が決定していた施設もあるため、計画の成果が 1 年目ですぐに出たものではないと考えている。今後とも長期的な視点で計画を進めていく必要があると感じている。

また、市民にも分かりやすいように計画の進捗を報告していきたいと考えている。

事務局：参考までに、新庁舎建設の状況を説明したい。平成 30 年 10 月に起工式を行い、平成 32 年 8 月に竣工する予定である。建物の延床面積は約 13,700 ㎡、建築面積は約 4,600 ㎡、鉄筋コンクリート造 5 階建てである。1 階の面積を広く確保し、市民窓口を集約する予定である。

新庁舎の建設により公共施設の総延床面積は増加することになるが、その点も踏まえて公共施設の再配置を進めたいと考えている。

会長：庁舎の延床面積は増加することになるが、現在の庁舎よりも高気密・高断熱になり、長期的なランニングコストは低減されると思われる。

会長：その他の施設についても、今後は分野ごとに個別計画（統廃合計画など）を検討することになると思うが、いつ頃、公共施設等総合管理計画に反映できるかは未定である。そのため、(40 年間の計画期間に対して) 10 年後の目標は一つの目安であり、10 年後に目標が達成できていない場合は、さらに力を入れて計画に取り組む必要がある。

委員：来年度の会議への要望であるが、資料に掲載された内容は読めば理解できるため、掲載に至った経緯を説明してほしい。そこに至った経緯を説明してもらえると議論しやすいと考える。

会長：資料 P. 3～P. 4 に掲載されている注釈の内容について、そこに至った経緯を説明してもらえると良いかもしれない。

事務局：公共施設等総合管理計画の進捗状況の進行管理については、全国的にも公表している事例が少ない。本市では見やすさ、分かりやすさを重視して資料を作成しており、説明が不足していた点もあると思われるため今後改善したい。

会 長：公共施設等総合管理計画に関連して、分野ごとの取組の方向性が概ね固まった段階で説明してもらい、各委員から意見をもらうことも考えられる。

委 員：過日、10年間廃校として残っていた旧長沼北小学校の利活用について事業者の公募が実施され、当社の理念と合致する部分があったため提案させてもらい、当社が優先事業者として選定された。

障害者福祉サービスを充実させるために廃校を活用したいと考えているが、重要な地域資源である学校を効果的に地域に還元する必要もあると考えている。廃校をカフェや道の駅、高齢者福祉施設として利活用する事例は増加しているが、障害者福祉施設として利用する例は少ないと考える。また、障害者福祉施設として利用するだけでなく、地域のニーズを取り入れながら地域住民の生活を支援する拠点として整備していきたいと考えている。

この利活用により公共施設の延床面積は削減されないが、維持管理費用の公費支出は削減できるため、今後の民間活用推進につながれば嬉しい。また、資料 P.5 以降にインフラ系公共施設の進捗状況が整理されているが、インフラの整備は計画的に進めてほしいと考えている。近年、未曾有の自然災害が増加しているため、自然災害への安全対策を十分に講じてほしいと感じる。

委 員：今後、長期間にわたり公共施設を維持管理していくことは非常に難しいことであり、利用状況などの数値を基に公共施設のスクラップアンドビルドを進めることは理解できる。しかし、学校は地域文化の拠点であり、そこで子どもが育つことを考えると、効率面だけを考えていては、人間力の低下につながることを懸念される。たとえば、バス通学に切り替えることで体力の低下につながったり、友達と喧嘩しながら通学して心の成長につながっていた側面がなくなったり。そのあたりも考慮して公共施設の再配置を進めてほしい。

委 員：子どもたちが学校以外で自分たちだけで気軽に行ける公園や遊び場などが少ない。

真岡は住んでみたら良いと思えるところだが車がないと不便であるため、子どもの行動範囲は限られてしまう。子どもが学校以外の場で思いきり活動できる場・集まれる場があると良いと考える。

事務局：近年、地域での活動や関係が希薄になっていると感じる。そのため、地域での公民館活動などを活発化させることで、子ども同士・親同士の繋がりが生まれ、地域力の向上につながると考える。また、地域のソフト的な繋がりにも力を入れながら公共施設の再配置を検討してい

きたい。

会 長：広島県で地元が NPO を立ち上げて移住者を集め、空き家を改修して、廃校になることを阻止するとともに地元の雇用創出につなげた事例もある。

委 員：今後、建設技術者の減少が懸念されているが、将来更新等費用を試算する際に考慮しているか。

事務局：あくまで総務省が定めた試算条件に基づいているため考慮されていない。公共施設等総合管理計画自体を見直す動きも出てきているため、今後、国や県の動向を注視しながら計画見直しの際に考慮したいと考えている。

委 員：子育ての面で、真岡市は第3子以降の出産祝金など助成が素晴らしいと感じているが、市民の中でも知らない人もいると思われる。

真岡市の郊外では居住者が少なく、子どもも非常に少ない。また、店舗やバスもなく、交通手段は自家用車しかない。高齢者しか住んでいない地域もある。

空いた施設を子どもが集まれるような施設として活用するなど、もう少しうまく使えるようになるとよいと考える。

会 長：たとえば、床面積 200～300 m²の集会施設などを地元で活用できるようにする方法も考えられる。市の取組の考え方を教えてほしい。

事務局：現在の取組としては、地域のコミュニティ維持も踏まえて廃校 4 校の利活用を進めている。どのような利用方法がよいかを各地域に確認しており、地域の意向を踏まえた形で民間事業者の提案を公募している。地域コミュニティを大事にしたいと考えている。

委 員：観光の視点から提案したい。廃校 4 校の利用については、いちごサミットの開催にあたり、東沼小学校は拠点として利用しやすいと考える。他事例（大田原市、行方市など）では、農村体験を含めた宿泊をモデルケースとして取り組んでいる。真岡市においても、いちごを活用した農業体験などをモデルケースとして実施できれば良いと感じる。

教育長：真岡の教育について説明したい。学力向上と体力アップは全面的に進めており、体力アッププログラムを策定したほか、ICT 教育にも力を入れている。今年度中に電子黒板を各教室に導入する。また、タブレットやデジタル教科書も導入予定である。あわせて英語教育にも注力しており、英語のアシスタント、日本語のアシスタントをすべての授業で配置している。

今後とも、質の高い教育を提供するための取組を進めていきたいと考

えている。

副市長：公共施設等総合管理計画の枠組みについて説明したい。国からすべての公共施設をこのまま維持することは困難であるため、合理的に縮小していける計画を策定するように要請があった。

現在、本市では公共施設の床面積で約 29 万㎡を保有しており、目標としては 25%（約 7 万㎡）を削減する必要があるが、現実的に約 7 万㎡の延床面積を削減することは難しいため、コストの縮減や長寿命化などを行い、約 7 万㎡を削減することと同等の効果を得ることを目指している。

また、施設の延床面積を削減する際は、サービスを維持しながら合理化する方法を検討し、結果的に延床面積が削減されるという流れが必要である。サービスをどうしていくか考えることが最も重要な視点であると考えます。

今後、計画の推進にあたり、息の長い取り組みを続けていく必要があるため、サービスと財源の両輪で工夫しながら進めていきたいので、今後とも宜しくお願ひしたい。

会長：20 年以上前に、空き教室を地域で活動する動きがあった。高齢者のデイサービスや老人福祉センターなどの事例である。それらが上手く学校教育に取り入れられ、子どもと高齢者が交流する場をつくることに繋がった。これからもそのような取組を検討できると良いと考える。なるべく学校を残しながら、高齢者などの居場所を提供するとともに、コストも削減するような方策をとれると良いと思われる。行政だけで実施できる取組ではないため、行政や住民、民間がアイデアを出し合いながら実施していけると良いと考える。

4 今後の日程

- ・事務局より、今後の日程について説明。

5 閉会

- ・事務局より、閉会あいさつ。

(以上)

真岡市公共施設等総合管理計画推進委員名簿

平成30年11月

No.	区分	推薦団体等	氏名
1	有識者	宇都宮大学名誉教授	三橋 伸 夫
2		株式会社あしぎん総合研究所	荒川 貴 之
3	地域	真岡市自治会連合会	豊田 征 巳
4		真岡市女性団体連絡協議会	本田 幸 子
5	社会教育・文化	真岡市社会教育委員	秋山 康 雄
6		真岡市文化協会	伊 卷 由美子
7	スポーツ	真岡市体育協会	佐藤 正
8	子育て・学校	真岡市子ども会育成会連絡協議会	荻野 徹
9		真岡市子ども・子育て会議	横田 康 子
10		真岡市PTA連絡協議会	青木 圭 太
11	商工観光	真岡市観光協会	川田 英 治
12	一般公募	公募委員	中澤 徳 光
13		公募委員	日下田 ゆかり

事務局

1	真岡市	市長	石坂 真 一
2	真岡市	副市長	嶋田 寛
3	真岡市	教育長	田上 富 男
4	真岡市	総務部長	増山 明
5	真岡市	市民生活部長	関 一 美
6	真岡市	健康福祉部長	加藤 敦 美
7	真岡市	産業部長	添野 郁
8	真岡市	建設部長兼水道部長	野澤 雅 孝
9	真岡市	教育次長	成毛 純 一
10	真岡市	企画課長	水沼 保 彦
11	真岡市	企画課管財係長	一ノ瀬 幸人
12	真岡市	企画課副主幹	田崎 雅 治
13	真岡市	企画課主査	関亦 謹 仁